

有害プランクトン情報 (令和3年度 - No. 6)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所・生産技術研究室
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によって、魚類のへい死や二枚貝の毒化を起こすことがあるため、毎月、有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

- 調査日 沖合
- | | | | | |
|--------|----------|------|----------|------|
| 9月 第1回 | 内湾 (8地点) | 9/8 | 内房 (7地点) | 9/7 |
| 9月 第2回 | 内湾 (8地点) | 9/22 | 内房 (2地点) | 9/21 |

東京湾(内湾)**【有害プランクトンの出現状況】**

- 第1回, 2回目の調査時に沖合漁場(富津沖, アクアライン北部)でカレニア属がみられました。密度は高くありませんでしたが、注視が必要です。
- ・9/8 船橋沖を除いた内湾の全域(沖合) 最高密度は富津沖の0.3細胞/mL
 - ・9/22 船橋沖(沖合) 密度は0.9細胞/mL
- ※ シャットネラ属は1細胞/mL, シュードシャットネラ属は100細胞/mL, ヘテロシグマ属は1,000細胞/mL, カレニア属は100細胞/mL以上で注意報を発出します。
- 赤潮(透明度1.5m以下, pH8.5以上, 酸素飽和度150%以上)が第2回目の調査で確認されました。
- ・9/22 羽田沖で確認。
珪藻キートセロス属, スケルトネマ属, タラシオシラ属が主体

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

1 麻痺性貝毒原因プランクトン

- 確認されませんでした。

2 下痢性貝毒原因プランクトン

- 沖合漁場でディノフィシス アキュミナータがみられました。密度は高くありませんでしたが、注視が必要です。
- ・9/8 富津沖を除く, 内湾の全域(沖合) 最高密度は盤洲南部の2.7細胞/mL
 - ・9/22 内湾の全域(沖合) 最高密度は船橋沖の0.9細胞/mL
- 沖合漁場でディノフィシス ロツンダータがみられました。密度は高くありませんでしたが、注視が必要です。
- ・9/8 盤洲南部(沖合) 密度は0.1細胞/mL
 - ・9/22 盤洲南部(沖合) 密度は0.1細胞/mL
- 沖合漁場でその他のディノフィシス属がみられました。密度は高くありませんでしたが、注視が必要です。
- ・9/8 盤洲南部(沖合)(ディノフィシス コウダータ) 密度は0.05細胞/mL
- 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

東京湾(内房)

【有害プランクトンの出現状況】

- 第1回の調査時に沖合漁場(2海保沖～浦賀沖, 大貫沖, 勝山沖および富浦沖)でカレンシア属がみられました。密度は高くありませんが, 注視が必要です。

・9/7 船橋沖を除いた内湾の全域(沖合) 最高密度は2海保沖および富浦沖で0.2細胞/mL

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

1 麻痺性貝毒原因プランクトン

- 確認されませんでした。

2 下痢性貝毒原因プランクトン

- 沖合漁場でディノフィシス アキュミナータがみられました。密度は高くありませんでしたが, 注視が必要です。

・9/7 2海保沖および浦賀沖(沖合) 密度はそれぞれ0.05細胞/mL, 0.3細胞/mL

・9/21 2海保沖～浦賀沖(沖合) 最高密度は大貫沖の0.4細胞/mL

- 沖合漁場でディノフィシス ロツンダータがみられました。密度は高くありませんでしたが, 注視が必要です。

・9/7 大貫沖(沖合) 密度は0.1細胞/mL

・9/21 2海保沖(沖合) 最高密度は大貫沖の0.2細胞/mL

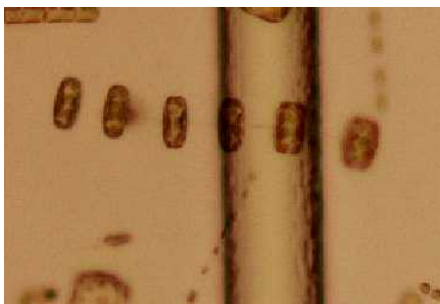
- 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

9/7,9/8 内湾・内房 珪藻シュードニッチア属, キートセロス属, タラシオネマ属など

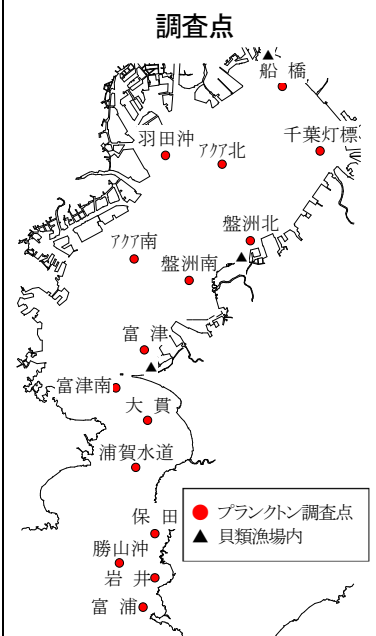
9/21,9/22 内湾・内房 珪藻キートセロス属, シュードニッチア属, スケレトネマ属, タラシオシラ属など



タラシオシラ属
(9/8 船橋沖)



キートセロス属
(9/8 船橋沖)



連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所

〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp